

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる</li> <li>②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について</li> <li>③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成</li> <li>④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック</li> <li>⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話</li> <li>⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング</li> <li>⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行</li> <li>⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する</li> <li>⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する</li> <li>⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について</li> <li>⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す</li> <li>⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り</li> <li>⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方</li> <li>⑭ディベートⅤ サッカーディベート1</li> <li>⑮ディベートⅥ サッカーディベート2、まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる</li> <li>②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について</li> <li>③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成</li> <li>④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック</li> <li>⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話</li> <li>⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング</li> <li>⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行</li> <li>⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する</li> <li>⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する</li> <li>⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について</li> <li>⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す</li> <li>⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り</li> <li>⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方</li> <li>⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ</li> <li>⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる</li> <li>②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について</li> <li>③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成</li> <li>④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック</li> <li>⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話</li> <li>⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング</li> <li>⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行</li> <li>⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する</li> <li>⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する</li> <li>⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について</li> <li>⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す</li> <li>⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り</li> <li>⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方</li> <li>⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ</li> <li>⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる</li> <li>②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について</li> <li>③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成</li> <li>④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック</li> <li>⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話</li> <li>⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング</li> <li>⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行</li> <li>⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する</li> <li>⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する</li> <li>⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について</li> <li>⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す</li> <li>⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り</li> <li>⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方</li> <li>⑭ディベートⅤ サッカーディベート1</li> <li>⑮ディベートⅥ サッカーディベート2、まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の得意分野」「私の宝物」「10年後の私」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発音・発声の基礎</li> <li>②滑舌</li> <li>③ニュースを読む</li> <li>④自己紹介に挑戦①</li> <li>⑤自己紹介に挑戦②</li> <li>⑥自分の得意分野をプレゼンする①</li> <li>⑦自分の得意分野をプレゼンする②</li> <li>⑧敬語の使い方</li> <li>⑨話を聴く技術</li> <li>⑩10年後の私</li> <li>⑪電話での対応と接遇</li> <li>⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る</li> <li>⑬就職の面接に備える</li> <li>⑭話し方が上達するノウハウ</li> <li>⑮ポディーコミュニケーションを読み解く</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情からその人の真意を読み解く訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の得意分野」「私の宝物」「10年後の私」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発音・発声の基礎</li> <li>②滑舌</li> <li>③ニュースを読む</li> <li>④自己紹介に挑戦①</li> <li>⑤自己紹介に挑戦②</li> <li>⑥自分の得意分野をプレゼンする①</li> <li>⑦自分の得意分野をプレゼンする②</li> <li>⑧敬語の使い方</li> <li>⑨話を聴く技術</li> <li>⑩10年後の私</li> <li>⑪電話での対応と接遇</li> <li>⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る</li> <li>⑬就職の面接に備える</li> <li>⑭話し方が上達するノウハウ</li> <li>⑮ポディーコミュニケーションを読み解く</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情からその人の真意を読み解く訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の得意分野」「私の宝物」「10年後の私」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発音・発声の基礎</li> <li>②滑舌</li> <li>③ニュースを読む</li> <li>④自己紹介に挑戦①</li> <li>⑤自己紹介に挑戦②</li> <li>⑥自分の得意分野をプレゼンする①</li> <li>⑦自分の得意分野をプレゼンする②</li> <li>⑧敬語の使い方</li> <li>⑨話を聴く技術</li> <li>⑩10年後の私</li> <li>⑪電話での対応と接遇</li> <li>⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る</li> <li>⑬就職の面接に備える</li> <li>⑭話し方が上達するノウハウ</li> <li>⑮ポディーコミュニケーションを読み解く</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情からその人の真意を読み解く訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習熟する。 主張するだけでなく、議論を噛み合わせていくために、 いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識する。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺しその対立を避けようとしします。 その場合、意見の対立は異常事態として捉えられます。 「人間は皆異なるものだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、 その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。 ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が 判断するスタイルのコミュニケーションです。 ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、 説得力のアップを図ります。						
到達目標	議論に際し、相手の主張することを正確に理解し、 自分の主張することをわかりやすく伝える。 データを収集分析し、データを活用した具体的な主張ができるようになる。 就職活動における入社試験や採用試験でも取り上げられるテーマについて理解を深める。						
授業計画	①ディベートの全体像 ディベートの必要性とデメリット、ディベートのルール ②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する ③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む ④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施 ⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開 ⑥民主主義とディベートの関連について考える レスター・サローの資本主義と民主主義を読む ⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク ⑧ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑨ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか ⑪ディベート2 ディベート演習（その1） ⑫ディベート3 ディベート演習（その2） ⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備 ⑭サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑮サッカーディベートⅢ サッカーディベート演習（その2）・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートでは有効な資料の収集も重要なポイントです。 授業外でディベートの資料の集めていただくこと、 その資料を使いながら立論を作成していただくことが大切になります。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、 レポート【30%】で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジネス活動には主張に説得力が必要です。 その「説得力」と「客観的な判断力」を高めることが授業のテーマです。						
授業の概要	事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。						
到達目標	よりレベルの高い「説得力」を身につける。 「客観的な判断力」を高める。 「具体的な議論」の組み立てを学ぶ。						
授業計画	①ディベート概説 立論・尋問・反駁のポイント ②立論の作成 問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑥ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える ⑧ディベート2 ディベート演習（その1） ⑨ディベート3 ディベート演習（その2） ⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か ⑪サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑫サッカーディベート3 サッカーディベート演習（その2） ⑬ロングディベート1 ロングディベート演習（その1） ⑭ロングディベート2 ロングディベート演習（その2）・まとめ ⑮ディベート審査 モデルディベートをジャッジする						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートを実施する土台となる資料は、授業外で収集します。その資料を活用し、授業とするディベート立論の論理構築を作成ください。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、客観的判断力評価【30%】で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティング(1) 第11回 アカデミック・ライティング(2) 第12回 アカデミック・ライティング(3) 第13回 アカデミック・ライティング(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にもどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。 後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティング(1) 第11回 アカデミック・ライティング(2) 第12回 アカデミック・ライティング(3) 第13回 アカデミック・ライティング(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半はグループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。 後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる」文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。テーマについて文章を書く個人作業もあります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる」文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。テーマについて文章を書く個人作業もあります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト1 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト2 第10回：アカデミック・ライティングの基本(1) 第11回：アカデミック・ライティングの基本(2) 第12回：アカデミック・ライティングの基本(3) 第13回：アカデミック・ライティングの基本(4) 第14回：達成度確認テスト3 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト1 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト2 第10回：アカデミック・ライティングの基本(1) 第11回：アカデミック・ライティングの基本(2) 第12回：アカデミック・ライティングの基本(3) 第13回：アカデミック・ライティングの基本(4) 第14回：達成度確認テスト3 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（コミュニケーション教育系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。</li> <li>・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。</li> <li>・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%						
教科書							
参考書							